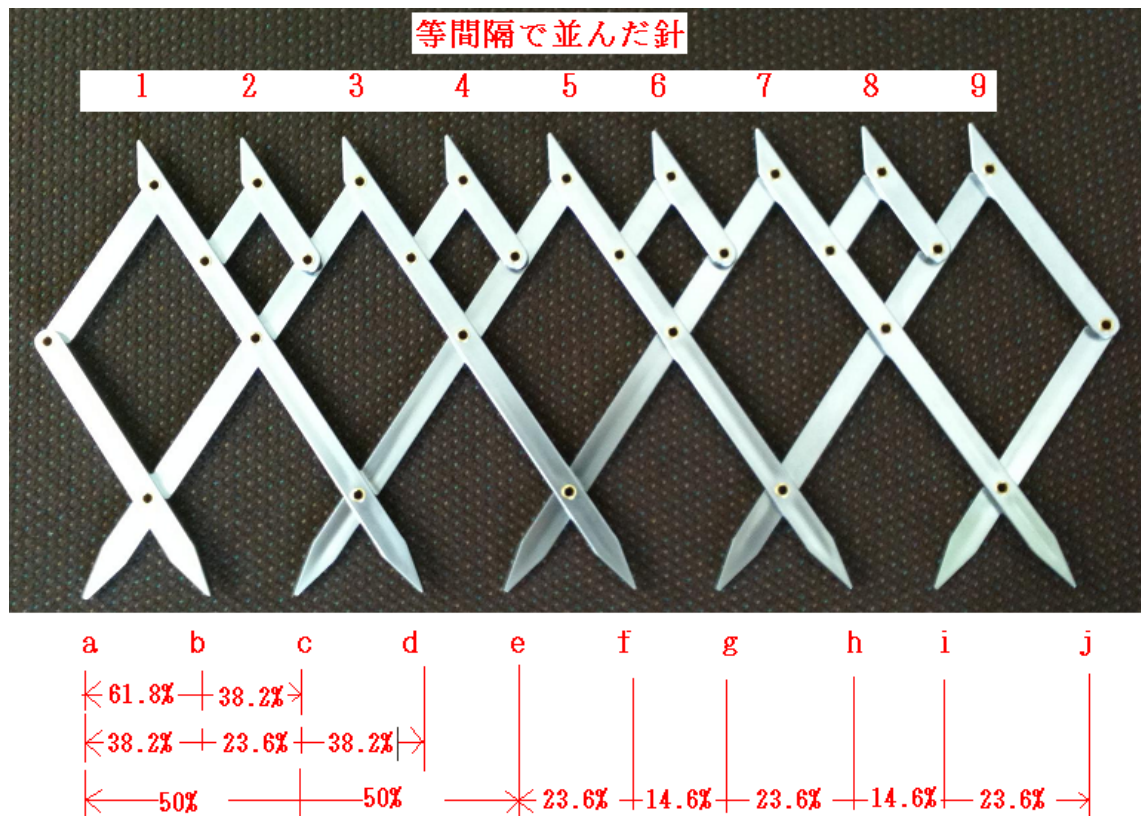


ゴールデン・サイクル・ルーラー《ヨコ軸篇》

このルーラーの特徴は、下の写真のように、上の針と下の針の間隔が異なっている事です。

針の幅が狭いほうが等間隔（図の針1～9）、広い方が黄金分割（図の針a～j）なっています（図の針a～j）。



黄金分割で並んだ針

a～cの幅を1とすればa～bは61.8%、b～cは38.2%。

a～dの幅を1とすればa～b、c～dが38.2%、b～cが23.6%。またa～cは61.8%と、どこでも黄金分割となります。

もし50%の位置を確認したい場合は、a～eの針を対象とすればcの針が50%を指し示します。これらは縦軸の価格にも応用できます（タテ軸の詳細はもう一方のPDF《タテ軸篇》に記載）。

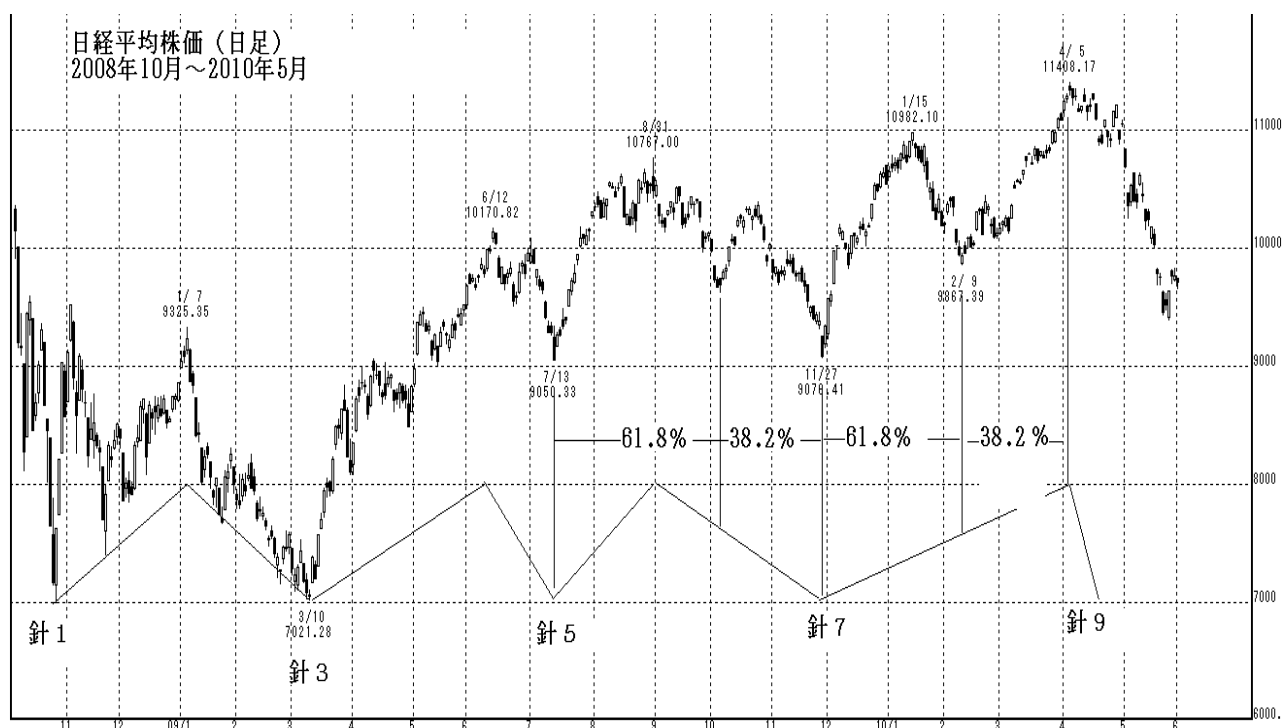
それでは、チャートのヨコ軸時間軸にルーラーの針をあてサイクルを見ましょう。通常、サイクルは相場の安値から安値までを計測します。（詳しくはメリマン公式サイト“Merriman.jp”より「サイクル分析の基本」を参照の事）

実際の計測

難しく考える必要はありません。先ず《等間隔の針》を、相場の安値から安値へと実際にあてて、目盛りを合わせてみてください。

今回は日経平均株価のチャートを例にとってみましょう。

1の針を08年10月の安値、3の針を09年3月の安値にあてると、5の針は09年7月の安値、7の針は09年11月の安値を指し示します。針2、4、6はサイクルの中心点を計測します。



また、これらの安値に、もう一方の《黄金分割の針》をあてると、次の針が安値ではなく、天井や重要な押し目、あるいは戻り高値を指し示すときがあります。その反対に、サイクルの天井と天井に針をあてることによって、次の針で天井ではなくボトムが指し示されるということも当然あります。これは、ローラーの最後の針が未来の相場転換点を指し示しているのかもしれませんが。

それを探し出すのは投資家の皆様です。独自に色々な安値に針をあてて試して、次の天井、或いはボトムの到来時期を予想してください。